

地域住民組織による災害時要援護者支援システムの研究開発について

研究期間：平成24年度～平成25年度（2年間）

研究代表者：辻 利則（ツジ トシノリ）、宮崎公立大学人文学部

研究分担者：大野 伸治（オオノ シンジ）、株式会社フェニックスシステム研究所

研究協力者：山元 弘道（ヤマモト ヒロミチ）、特定非営利活動法人 吹矢 de 元気協会

研究目的：

災害時の要援護者（高齢者、障がい者）の被害を最小限にとどめるもっとも効果的で、実効性のある取組は、地域住民の支え合いと考えています。しかし、近年の高齢化や自治会加入率の低下等により、地域の希薄化がいわれています。

①私たちは、災害に強い地域づくりには、日頃の地域づくりが大切と考え、特に高齢者や障がい者などの要援護者の地域での見守り活動やその理解が必要としています。

②また、東日本大震災での障がい児・者に対する対応がなかなかスムーズに行われませんでした。自分の名前や連絡先など伝えられない障がい児・者に対する対応で、個人情報保護法のもと自治体等に情報はあっても利用できない状況がありました。

そこで、本システムは①日頃の見守り活動を地域の支え合いで行うことができるもの、また②災害が生じたときに障がい者自ら個人情報を発信できるもの、を構築しました。日頃からシステムを利用してもらい、災害時にも利用できるものです。

このシステムの特徴は、行政ばかりに頼らず地域で運用できるように ICT を利用することでコスト高にならないように、地域のだれでも支援者になれるように、特に若い世代に支援者になってもらいたいものとして考えたことです。支援される高齢者や障がい者のコストはほとんどかからず、手軽に参加できるものになっています。

システム概要：

本研究で開発する災害時要援護者支援システム（名称をぴーすけ（PSK）とする）は、要援護者に QR（Quick Response）コード、IC タグ（NFC：Near Field Communication）付きのカードを所持させ、平常時は要援護者の「見守り」として活用し、災害時は支援者の活動を支援するというものです。なお、システム名としている「ぴーすけ」は、マザーテレサの有名な言葉にある Peace begins with a Smile に Kindness を付け加えた “Peace begins with a Smile and Kindness” を略して PSK としたもので、「ぴーすけ」と呼びます。

図1に示すものが作成したサンプル用の「ぴーすけカード」で、表面には QR コード、裏面には基本的な個人情報（状況によって変更あり）が印字されています。QR コードを携帯電話等で読み込むと図2に示すようにある程度の個人情報と web サイトの URL が表示されます。なお、QR コードは、コピーして印刷することができるので、「ぴーすけカード」を紛失した場合にも QR コードのみでの利用も可能です。

図3は Web サイトの画面です。要援護者の持つ「ぴーすけカード」の QR コードからアクセスし、支援者となるだれもが平常時は見守りとして、健康状態や不在の状況、災害時は避難状況を報告でき、要援護者が用意された個人情報を閲覧することができます。

そして、報告された内容は、家族はもちろん組織団体においては現在の状況を一覧で確認することができます。



図1 ピ～すけカード



図2 QRコード読込画面

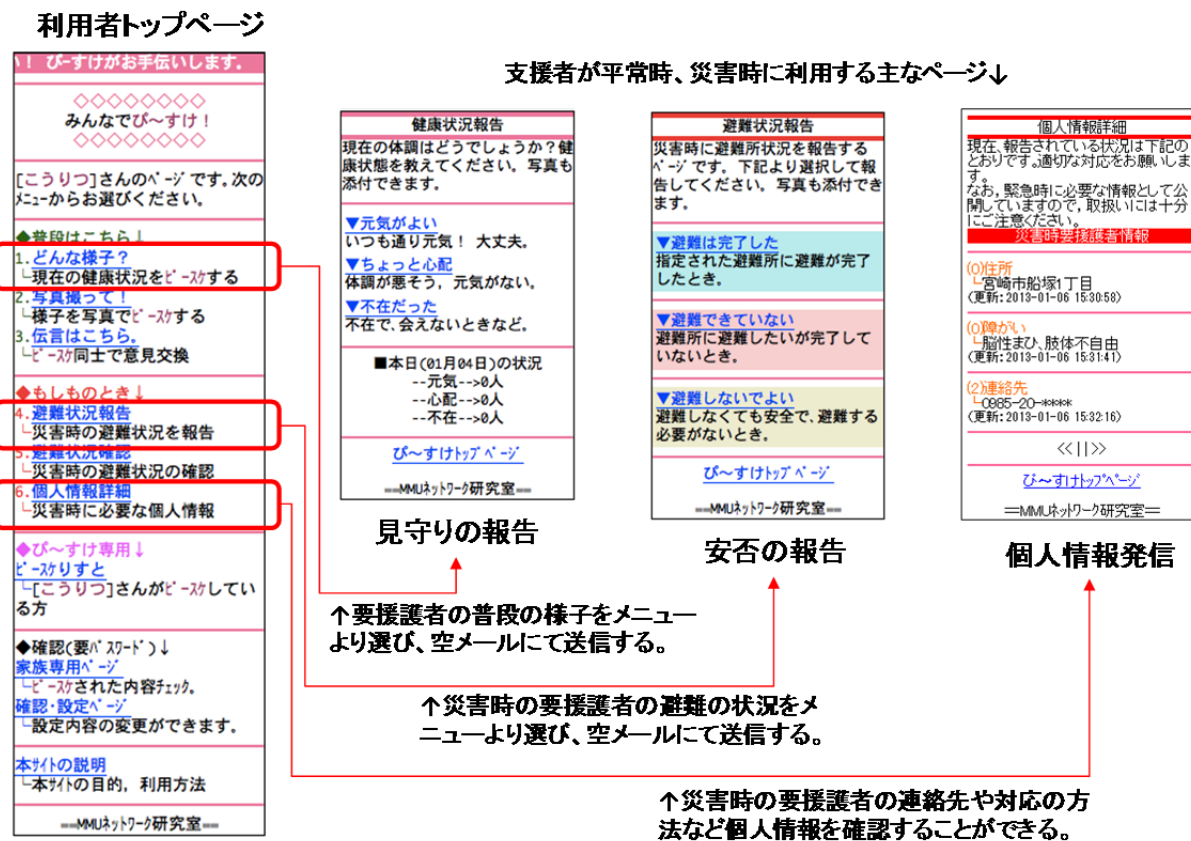
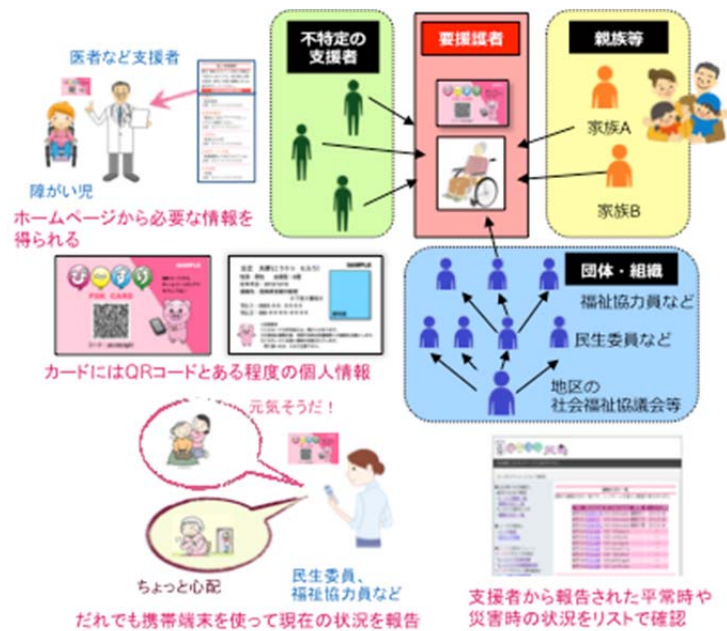


図3 利用者(要援護者)のWebサイト

利用イメージ：

右図のとおり、要援護者を地域の不特定の支援者、地域の団体や組織、家族で見守るものです。それぞれの見守り活動が一覧で表示されることで、効果的な見守りができます。

民生委員や福祉協力員の負担の軽減にもなり、個人情報や災害の際に必要な情報として利用できます。



現在の活動：

①システムの運用

宮崎市の中央西地区のご協力

のもと行うことになっており、今年度はモニター運用のための説明会を行っています。その他、市内の二つの福祉施設でも行う予定にしています。

来年度は、県内の複数の施設でも利用しますが、東日本大震災で被災した地域、仮設住宅などでの見守りのシステムとして実施する予定です。

②広報活動

この「ぴ～すけ」というシステムは、以前からあった紙ベースのヘルプカードを ICT と組み合わせたものになっています。ヘルプカードも同じですが、支援する人がそのカードの存在を知らなければ全く機能しません。

そのため、「ぴ～すけ」のシステムがうまく運用されるには、この存在を皆が知っておく必要があります。広報活動は重要な役目を持ちます。

今回は、飲料メーカーの支援で自動販売機への「ぴ～すけ」のラッピングをして頂き、公立大学からスタートします。今後も県内各地へ広報できるように協力をお願いしたいと思います。

総務省の戦略的情報通信研究開発推進制度（SCOPE）

Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme

の「地域 ICT 振興型研究開発」のプログラムの助成。

このプログラムの内容は、以下の通り。（総務省のホームページより掲載）

「ICT の利活用により地域固有の社会的・経済的課題を解決し、地場産業の振興や創出、地域住民の生活向上など地域社会・経済活動を活性化するために、地域の大学や中小・中堅企業、地方自治体の研究機関等に所属する研究者が提案する研究開発課題に対して、研究資金を配分します。」